

平成30年度第3回千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

日 時：平成31年3月14日（木） 午後2時から4時

会 場：千葉県立美術館 研修室

出席者：委員 岡本委員（議長）、西田委員（副議長）、小野委員、浅岡委員、細井委員、
齊藤委員、高橋委員、米本委員
博物館 太田美術館長、萩原中央博物館長、上田現代産業科学館長、谷鹿関宿城博物館長、
永沼房総のむら館長
文化財課 植野学芸振興室長

1 開 会 （傍聴人なし）

2 館長挨拶 （千葉県立美術館 太田館長による）

3 視 察

- ・第1, 2展示室「具象彫刻展 ー具象彫刻の先駆者たちー」
- ・第3展示室「近代洋画の先駆者 浅井忠9 ー浅井忠の京都時代ー」
「北詰コレクション メタルアートの世界Ⅲ ー彫金の魅力ー」
- ・第7展示室「具象彫刻の今 ー彫刻家宮坂慎司と県美の収蔵作家たちー」
- ・第8展示室「コレクション名品展 ーバルビゾン派の画家たちを中心にー」

4 協 議

（1）展示と関連行事に関する事業運営について

【議 長】

今回は、県立美術館の取り組みについて協議します。では、テーマについて説明をお願いします。

＜美術館より配布資料及び概要について説明＞

【議 長】

ただいま美術館より展示と関連行事に関する事業運営について説明がありました。各委員から意見を
お願いします。

【委 員】

子どもがとても生き生きとしていたり、美術館の外に出かけて作品に描かれた風景を実際に見に行ったりと、非常にアイデアに満ちた普及活動が行われていると思った。館の方の準備は大変でしょうが、とても活発に活動していてよいと思った。

ギャラリートークが美術館の教育普及活動の中でも一番基本だと思う。ただ観客の側からすると展示室をずっとついていくのが大変なこともある。今日のガイドツアーのような形ではなく、コーナーにある程度の数の椅子を用意して、今日の大きな写真を使うアイデアもよいと思うが、映像を小さなスクリーンで見せながら、来館者には椅子に座っていただいて、展示の背景や情報を説明するという“動かない”ギャラリートークがあってもよい。そうすると場合によっては、映像だけずっと流しておけば、館員がいつもいなくても見ることができる。

バルビゾン派、メタルアート、浅井忠などについては、山梨県や国立近代美術館工芸館、国立博物館等 都内に行かなくても、千葉県立美術館でいろいろな作品が見ることができる。山梨県立美術館のバルビゾン派に見劣りしない千葉県立美術館のコレクションの魅力をもっと訴えてほしい。

【委員】

職員の方や展示方法に親しみを感じる。作品も身近で鑑賞できるいい展示の仕方。館全体の姿勢が歓迎してくれる感じでうれしい。千葉県内の子どもたちが中学を卒業するまでに1回はここに来て、ガイドツアーを経験すると芸術、美術に対する興味関心が高まるのではないか。小さい時からこのような経験をすることが教育的にも効果があることだと思う。千葉県の高校は、他県に比べ芸術に力を入れている。人的配置にもお金をかけてもらっている。他県と違い、千葉県のほとんどの高校が「芸術2」まで履修し進学していく。さらに音楽、美術、工芸、書道の4科目を展開している学校も多く、それも他県には珍しい。千葉県は芸術など情操教育に力を入れている県で誇らしく感じている。芸術に力を入れている県ということで小、中学生にも美術館に足を運んでもらうようなメニューを夏休みなどに作っていただくとよい。

【委員】

ワークショップなどこれは今度やってみようと思うものがたくさんあった。展示で作品のガラスに自分のシルエットが映り込むのが気になった。照明の当て方の関係か。みなさん努力をしている。展示は展示室ごとにテーマが違って、すごく興味がわくような展示にしている素晴らしいなと思った。

【委員】

館長の話に、美術館を応援する県民を増やそうという話があった。千葉県の博物館、美術館から市川市の小さい公民館にリーフレットが届く。今日本物を見て思うことは、本物に触れるということは地域ではなかなか少ない、情報ツールとしてポスターやリーフレットがはじめての一步になるのだったら、目の届くところに掲示して、身近に感じてもらう。市川の公民館も美術館に行く人を増やすその一役を担うことができるのでは。

公民館では毎年、市のバスを使って房総のむらや加曽利貝塚などに出かける企画をしている。

【委員】

千葉テレビなどでも展示の情報を発信しているか。

【美術館】

企画展については、ほとんどの場合取材をしてもらっている。

【委員】

やはり発信ということを考えることが大事。NHKの「日曜美術館」で取り上げた美術館には、日曜の午後になると人がどっと押し寄せるといった現象がよくある。取り上げられた美術館が近くにある場合は、そこに行ってみようと思う。できるだけ情報を発信するということを考えることがすごく大事だと思う。

【委員】

展示室の最初の入り口で、空間がいいなと思った。いろいろな活動を拝見すれば、ほかの館でもそれぞれ特長を生かして活動していて、これに何か付け加えるということはない。全体として自分の立場としていつも考えているのは、文化的な場を提供する機関という枠組みの中にあって、様々な館どうしが何か連携できないかということだ。例えば、今日拝見して、千葉県の昔の風景や生活などが描かれている、あるいは形になっている展示がたくさんある。それを他館の資料と合わせて何かできないか。例えば5年に一度、総合企画展「千葉」というのをやって、それぞれの館で千葉について一緒に企画するなど、つながりを利用して互いに活動を盛り上げることもできるだろう。

学校教育とのつながりとして、いかに場を提供するか。子どもたちの美術を鑑賞するときのマナーをこ

のような場所を利用して教えるという利用方法も考えてよいのでは。

駅から歩いてきたが、駅に着いたときにここに美術館があるという雰囲気がない。どうやってここまで導くかというなにか“魅力”が駅あたりからでも見えるとよい。

【委員】

この空間がすごくゆったりしているのがいいと思っている。解説を聞くとよくわかる。しかしもっと専門的な話でなくていいかなという気も。一般的に彫刻ってどうやって見るのか、どんな鑑賞法なのかなど話してもらえると嬉しいと素人は思って聞いていた。

Facebook 的な使い方かもしれないが、解説を聞くと何か思うことがある。その思いを人に伝えたいなというのがある。「いいね」カードみたいなものを用意しておいて、それをどこかに貼るとかすると、自分の思いを共有できておもしろいのではという気がした。

ワークショップはいい取り組みと思うが、1回限りだとせっかくのリソースがもったいない。何回でも使えそうなものもあった気がする。そういうものは繰り返しやっていけば、若い人も増えるし、定年退職して元気な人たちがこういうことをやりたいと思う。そういう人たちも取り込めるといい。

【議長】

美術館以外の館はどのような状況ですか。

<各館長が行事案内、チラシに基づき説明>

(2) その他

【議長】

テーマ以外で質問等がありますか。

【委員】

外国人はどのくらい来ているか。幕張メッセも近いし、ホテルもある。そこから呼べるとよい。

【美術館】

外国人向けの展示や受け入れを準備していきたい。

以上